

SCARTSの さまざまなサービス・機能 Services and Functions

SCARTSには、一人ひとりの創造性を支えるための、さまざまなサービスや機能があります。具体的には、インフォメーションカウンターやインフォメーションコーナー、対面相談サービス、ウェブサイトでの情報提供を行っており、これらを総称して「文化芸術活動サポートサービス」と呼んでいます。

また、SCARTSの各施設を利用する場合にも、スタッフがサポートします。

文化芸術活動サポートサービス

◎インフォメーションカウンター／インフォメーションコーナー

札幌市内で開催される文化芸術イベントのチラシ類を配架しています。これらは市民からお預かりしたものです。窓口にはスタッフが常駐し、施設利用に関するお問い合わせや、文化芸術に関するイベントチラシの持ち込み、対面相談サービスへの取り次ぎ等に対応しています。また、全国の芸術系公募事業や助成金に関する情報も収集し、募集要項等を配架しています。

◎対面相談サービス

SCARTSでは、市民の文化芸術活動に関する悩みにスタッフが応える「対面相談サービス」を実施しています。

「発表や活動の場を探している」「イベントの企画や告知の方法を知りたい」「助成金や公募の情報を教えてほしい」「アーティストや演奏家の紹介をしてほしい」といった、日々の活動での困りごとの相談に対して、担当スタッフが問題解決に向けて一緒に考えます。

利用は無料、1回1時間程度を目安とし、事前申込制です（SCARTSのウェブサイトから申込可能）。

◎ウェブサイトでの情報提供

SCARTSのウェブサイトでは、文化芸術に関わるさまざまな情報を提供しています。「さっぽろ Art&Culture インフォメーション」では、大通情報ステーションから提供されるイベント情報とともに、札幌で開催される文化イベントの情報を発信しています。ジャンル、エリア、日付、キーワード別に検索できるほか、お気に入り登録やGoogleカレンダーへの登録も可能で自分好みのイベント情報を集めることができます。また、貸室のある札幌市内の文化施設やアートのスペースの情報、助成金や公募の情報、アートボランティアの情報など、文化芸術活動に関わるさまざまな情報がウェブサイトに集約されています。相談サービスやインフォメーションカウンターと共に、一人ひとりの活動を支えるためのデータベースです。



インフォメーションコーナー



市内各所で開催される文化芸術イベントの情報が集まる



文化芸術に関するさまざまな相談にスタッフが対応している

ウェブサイトは文化芸術活動のためのデータベース

◎施設利用のサポート

札幌市民交流プラザの施設を利用される場合、SCARTSコート、SCARTSスタジオ、SCARTSモールの利用についてはSCARTSのスタッフが対応します。

[利用可能施設]

SCARTSコート

発表や交流の場として活用できるオープンスペースです。ミニコンサートや講演会、可動式の展示パネルを活用した作品展示など、各種イベントに幅広く利用されています。また、音や光を遮る可動壁を設け、独立した空間としても活用できます。

面積:165㎡/天井高:5.3m(グリッドパイプ下端)/床:ビニル床タイル/楽屋設備:1室/収容人数:最大150名



SCARTSコート



SCARTSスタジオ1・2

SCARTSスタジオ1・2

創作活動に適したガラス張りの多目的スペースです。ワークショップや各種講座を行うことができるほか、作品の展示空間としての利用も可能です。また、2室つなげて利用することもできます。

面積:各82㎡/天井高:3.7m(固定バトン下端)/床:ビニル床タイル/収容人数:最大60名(スタジオ1)、最大57名(スタジオ2)



SCARTSモールA・B

SCARTSモールA・B・C(1階・2階)

多くの市民にアピールできる屋内広場です。プロモーションイベントや物品販売などのほか、作品展示にも利用できます。

A・B(1階) 面積:各60㎡/天井高:5m(吹き抜け部あり:18.1m)

C(2階) 面積:60㎡/天井高:10m



SCARTSモールC

[テクニカルスタッフ]

SCARTSには、会場の設備に精通し、展示の設営や技術開発を専門とするテクニカルスタッフがいます。主催の美術展などでは、会場構成のデザインや造作物の設計、作品に使用するシステムの開発など、制作に関わる技術的な部分を広く担当しています。また、市民の皆さんが施設を利用される場合にも、技術面でのアドバイスやサポートを行っています。

調査研究事業

SCARTSの活動の基礎として、開館準備の段階から調査研究事業を継続的に行っています。現在の施設の利用状況や文化芸術を取り巻く課題をもとに、今後調査すべき対象を中期的視点で決定し、実態調査や先駆事例調査を実施し、調査結果の分析等をもとに、充実した情報提供や、よりよい事業展開に生かすことを目指しています。

2019年度・2020年度の2年間は、文化芸術活動に関わる人や施設等が活用できるアーカイブ事業の展開に向けての基礎調査を行いました。2019年度には、文化芸術に関するアーカイブ事業を実施している全国の文化施設及びリサーチセンター等40施設に対してのアンケート調査と、独創的なアーカイブ事業の実施事例として、二者へのヒアリング調査を行い、2020年度は前年度の分析をもとに、アーカイブ事業実施における体制の構築や文化施設・文化芸術団体への支援活動の参考とするため、4施設のアーカイブ担当者へのヒアリング調査を行いました。これらの調査は、文化施設における記録資料アーカイブの保存・公開の意義や、そのための体制構築の実態、SCARTSの活動としてどのようなアーカイブの構築・発信の可能性があるのかを、検討する資料となりました。

※このアーカイブに関する調査研究の報告書はp.126-157に掲載

[SCARTS開館前の調査事例]

2016年度 札幌文化芸術交流センター相談・活動支援事業に関する検討支援調査

アーティストへの活動の場や助成金などの情報提供を行う相談・活動支援事業に向け、実施体制などについて検討するための調査を行いました。

2017年度 札幌市内の文化芸術施設等及び文化芸術団体に関する調査

相談・活動支援事業を円滑に実施するための情報収集を目的として、札幌市内の文化芸術団体および文化施設等へアンケート調査を行いました。

文化施設等については、札幌市内のホール、美術館、博物館、ギャラリー、イベントスペースなどの244施設を対象にアンケート調査票を郵送し、183件を回収。そのうち、情報公開可能な164件について、文化芸術活動サポートサービスの一環として公式ホームページに詳細なデータを掲載しています。

Technical Staff

テクニカルスタッフの取り組み

今日の作品・展示制作の現場では、さまざまな技術や知識を持ち、アーティストの表現に寄り添いながら制作に関わるテクニカルスタッフやエンジニアの活躍の幅が広がってきています。また、新しい表現を探究するためには、日々更新される技術の習得や応用、専門人材の育成も必要不可欠です。

SCARTSでは、テクニカルスタッフによる研究開発の実践の場として、SCARTSのPRのためのプラットフォーム「APRCH(アプローチ)」の制作と更新を行っています。また、メディアアート・現代アート作品を扱うことのできる人材の育成や、世界各国で活躍するエンジニアとの人的ネットワークの構築を目的とするプロジェクト「Art Engineering School(アートエンジニアリングスクール)」を、SIAFラボと共同で実施しています。

APRCH

アプローチ

A platform for chance encounters

偶然の出会いのためのプラットフォーム

多くの人が行き交う札幌市民交流プラザ1階をメインストリートと見立て、建材で構成した什器や、通行人に反応して動作する装置、映像等によって、メインストリートから入り込む路地のような空間を生み出しています。この路地空間は、SCARTSモールA・Bの催しが行われていないときに現れる仮設的なもの。通行人は突然猫に話しかけられたり、動きまわる行灯のようなロボットに興味をひかれたりといった思いがけない出会いを通じて、施設のことや、ここで開催されるイベントについてなど、さまざまな情報に触れることができます。

今後も、これまでの運用の中で取得したデータをもとに、什器やコンテンツの更新を続けていく予定です。



施設説明等のステッカーが貼られている



多くの人々が通行する SCARTS モール A・B に展開される



配置や組み方が都度変わる



ゆっくりと回る旗



SCARTS スタッフのインタビュー映像

点在する什器は建築家・加藤正基による設計で、建材を使用して構成されている



ディスプレイに近づくと、猫が出てきて話しかけてくる



チャット風の事業紹介



作業灯



チラシやパンフレットが置かれている



徘徊するロボット。たまに音が出る

Technical Staff

テクニカルスタッフの取り組み

SCARTS×SIAF Lab SCARTS×SIAFラボ Art Engineering School アートエンジニアリングスクール

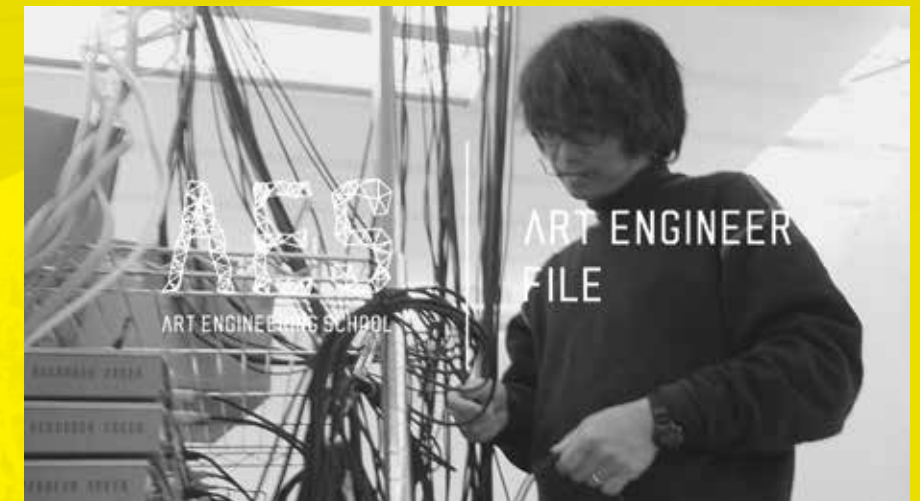
2020年度より始まった、SCARTSとSIAFラボによる共同プロジェクト。メディアアートや現代アートに関わるアート・エンジニアリングの役割や技術を、実習を交えて学んでいきます。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、映像での配信を中心としたプログラムに絞り、映像／音響システムの基礎的技術や、アート・エンジニアリングの分野で活躍している専門家の方々の思想や実践を紹介。3つのプログラムを展開しました。

<https://art-engineering.school/>



Audio / Visual Basics

アートエンジニアリングスクールの目的や考え方についての講義と、デジタル機材の基本的な機能や仕組みを理解するための演習などの映像配信プログラム。



Art Engineer File

第一線で活躍する専門家や実践者の方々に、表現と技術の関係や、技術の役割などについてインタビューした動画を配信し、アート・エンジニアリングの考えを深めるためのプログラム。2020年度に4名のインタビューを公開。



Backstage Pass

作品制作や展覧会の裏側を支えるエンジニアがどんなところで、どんな仕事をしているのか、制作現場の裏側(バックステージ)の見学や交流を通じて理解を深める参加型のプログラム。新型コロナウイルス感染症拡大によるイベント自粛中でも実施できるオンラインプログラムとしてスタートし、2020年度にはRhizomatiksのスタジオを訪問しました。

主催 札幌国際芸術祭実行委員会、札幌市、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)